
超小説版ケロロ軍曹 新

リルル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超小説版ケロロ軍曹 新

【Zコード】

N9087Y

【作者名】

リルル

【あらすじ】

ある日 ケロン軍からケロロ小隊に手紙が届いた その内容は新たな小隊を応援としてペポコンへ派遣するという内容だった…

1 更新は不定期です

2 本編とあらすじはストーリーが異なる場合があります』注意く

ださい

3タイトルを修正しました

登場人物紹介（オリキヤラ）

オリキヤラ

すずき しょうこ
鈴木翔子

年齢 15

本作の主人公で麗華の友人 日向秋の親戚の子でわけありで日向家に居候している

にしざわ れいか
西澤麗華

年齢 16

桃華の姉で5年前に何者かに拉致されている それ以降の詳細が不明

ふるやま てつや
古山哲也

年齢 15

（設定変更）

月で生まれた少年

サブローによく似ていて冬樹やケロロの事を何故か知っている

本作品の重要人物の一人（多分：）

オリケロ

リルル小隊 通称 なでしこ小隊

リルル少佐（隊長）

性別 女

共鳴 リルリルリルリルリルリル

マリリ曹長（作戦部長）

性別 女

共鳴 マリマリマリマリマリマリ

サララ看護長（医療関係等）

性別 女

共鳴 サラサラサラサラサラサラ

リリス軍曹（兵器開発等）

性別 女

共鳴 リスリスリスリスリスリス

エミリ上等兵（衛星管理等）

性別 女

共鳴 ハリハリハリハリハリハリ

第零話

いつも通りに作戦会議を始めるケロロ軍曹

ケロロ「諸君何かいいアイデアがあるか!」

小隊「シーン」

ケロロ「何も考えてねえのかよ!」

ギロロ「それはこっちのセリフだ!」

ケロロ「だつて だつて~」

翔子「入るわよケロちゃん」

主人公である翔子が入つて來た】

ケロロ「なんでありますか翔子殿】

翔子「ケロちゃんあてに手紙よ】

ギロロ「ケロロに…】

手紙を見るケロロ

ケロロ「これは軍からの手紙であります】

ギロロ「ケロン軍からだと】

モア「読み上げます 「ケロロ殿 応援としてリルル小隊をペポコンへ

派遣する 到着予定日はペポコン

時間11月25日】

ケロロ「11月25日でこうと…】

翔子「今日よ】

クルル「高速で何かが接近中だぜ】

ドシャーン

小型の円盤が日向家に落下

? ? ? 「リルリルリルリルリル

共鳴をする謎の生物

ギロロ「貴様何者だ!】

ケロロ「もしかしてリルル殿でありますか？」

リルル「そうよ」

つづく

第壱話（前書き）

お気に入りに登録してくれた方ありがとうございました
近々新の続編の予告編を公開する予定です
それでは本編どうぞ

ギロ口「貴様何者だ？」

リルル「私の名はリルル」

どうやらケロン入らしい

ケロ口「リルル殿きみの小隊メンバーはどこ…」

リルル「ああっ！忘れてた 確か大気圏突入時に…」

ドロ口「はぐれちゃったのでござるか？」

リルル「うん」

翔子「ケロちゃん」

ケロ口「なんでありますか？」

翔子「明日みんなでリルルの仲間を探しに行かない？」

ケロ口「いいでありますか…」

ギロ口「隊長の命令ならしじょうがない」

不満そうに言うギロ口

ケロ口「明日リルル小隊メンバーを探すであります」

小隊「了解」

ドロ口「どうしたでござるかタママ殿」

タママ「あの女軍曹さんとこちやいぢやしづがつて…」

そうタママにとつて翔子はモアと同じ存在なのだ

つづく

第壱話（後書き）

短くてすいません

意味不明の所があつても気にしないで
ください

第3話

翌日 リルル小隊のメンバーを探すために集まつたケロロ小隊と冬樹と夏美と

翔子と桃華

夏美「なんで私がボケガエルの仲間を探さなきやいけないのよ！」

翔子「いいじゃない」

冬樹「そうだよねえちゃん」

桃華「西澤財閥も喜んで搜索に参
加いたしますわ」

ケロロ「ありがとうであります桃華殿」リルル「……みんなあり

がとう」

ケロロ「クルル！ 早速探査衛星で
搜索を実行するであります」

クルル「了解だぜ～」

ケロロ「我が輩たちは宇宙人街で
聞き込みであります」

タママ「軍曹さん」

ケロロ「なんでありますか？」

タママ「確かに宇宙人街はペポコン人は
立ち入り禁止じゃ～」

ケロロ「すっかり忘れてたであります～」

冬樹「その宇宙人街てなんなの？」

クルル「それなら問題ないぜ」

冬樹「聞いてないし」

ケロロの部屋の転送装置からスースの
ような物が転送されて来た

ケロロ「さすがクルル！」

そのスーツは通称宇宙人型ペポコン人
スーツ 地球人が宇宙人になりきる
ために開発されたスーツ

しかもウルトラマンの初代バルタン星人に似ている

桃華「これを着るんですか？」

翔子「少し抵抗感があるわね」

ケロロ「宇宙人街にいる間は我慢して
ほしいであります」

冬樹「軍曹の頼みなら」

タママ「そろそろ行かないと」

ケロロ「今から出発であります！」

第3話（後書き）

次は宇宙人街が出て来ます

宇宙人街　ここはたくさんの宇宙人が
訪れている

冬樹「すゞい！すゞすぎる！　」
に宇宙人が地球に来てたんだね軍曹」

ケロロ「まさかこれだけで興奮するとは恐るべし冬樹殿」

冬樹「軍曹　聞いてるの？」

ケロロ「な　なんでありますか冬樹殿」

冬樹「聞いてなかつたんだね……」

そこへ1人の宇宙人が話かけてきた

? ? ? 「おい　ケロン人！」

ケロロ「なんでありますか」

タママ「お前はサキ星雲のサキエル！」

サキエル「よく知ってるな」

翔子「ちょっととききたい事があるんだけど」

サキエル「なんだ？」

翔子「この写真の4人見てない？」

サキエル「ちょっととかしな」

写真を見つめるサキエル

サキエル「見た事ねえな」

冬樹「そうですか」

サキエル「写真を見て思い出したんだけど」

タママ「なにをですか？」

サキエル「昨日一人のペポコン人の女
が来たんだ」

ケロロ「ペポコンでありますど～」

サキエル「その女は確か青色の髪をしていた」

桃華「その人は今どこに？」

サキエル「多分駐在所だと思つよ」

ケロロ「駐在所…」

サキエル「宇宙警察に連行されるのを見たから」

ケロロ「ありがとうございますサキエル殿」

サキエル「困った時はお互に様さ」

そう言つて離れるサキエル

翔子「とりあえず行つてみる? ケロちゃん

ケロロ「行くであります」

つづく

第参話（後書き）

いよいよ次回あの人物が登場！
あのドラマとのコラボ企画ーー！

番外編1 麗華の取り調べ

宇宙刑務所 ここは違法行為をした宇宙人及び無断侵入した地球人が入れられる所である

麗華「なんで私ばかり…」

警官「取り調べの時間だ」

取り調べ室に入る女と警官

警官「警部殿 警部補殿 あとは宜しくお願ひします」

警部「わかりました」

警官は出ていった

警部「取り調べに入ります 単刀直入にお尋ねしますか 君は何故地球人なのに宇宙人街に入ったのですか？」

麗華「……」

警部「沈黙してないで答えなさい！」

警部補「君もさりっぱな地球人

なんだからさ白状したらどうなの？」

麗華「全て話します…」

麗華は全てを話した

自分の過去を

何故宇宙人街にいるのかを

警部「なるほどそうでしたか…」

警部補「しかし君も災難だつたね」

麗華「私罪になりますか？」

警部「法律上は罪になりますか
なんとか上にかけあつてみます」

麗華「ありがとうございます」

こうして麗華の取り調べは幕を閉じた

番外編 1 麗華の取り調べ（後書き）

ここに登場した警部と警部補は実は相棒の杉下右京と神戸尊の事です
ちなみに取り調べ時期はケロロ達が
宇宙人街に来る1日前という設定です

第四話

ケロロ「やつとついたであります」
何者が声をかける

？？？「そこのケロン人！」

タママ「ポヨンちゃんにポワンちゃんですか」

ケロロ「やべえ」

ここで説明しよう 長い髪野毛した

警官は宇宙人街 サイドシックス

駐在所勤務の ポヨン巡査部長だ

そして同じく駐在所勤務のポワン巡査長だ

ポヨン「そこの4人は誰でポヨ？」

ケロロ「この4人はヒステリック星
のヒステリック星人であります」

夏美「誰かヒステリックですって！！」

翔子（変なネーミング付けないで欲しいわ
いつもケロロに優しい翔子もさすがに

心の中でキレている

ケロロ「すぐ怒るのがヒステリック
星人の特徴であります」

ポワン「後で確認して見るポワ」

ポヨン「今日はなんのごようポヨ？」

ケロロ「宇宙人街にペポコン人がいる
て聞いたんだだけと～」

ポヨン「その件ね 昨日そのペポコン人を逮捕して送検したポヨ」

ケロロ「ええ！」

ピーピー！

とポヨンの携帯がなる

ポヨン「ちょっとまつポヨ

もしもし 刑事部長ですか】

ある程度話が進み

ポヨン「彼女がケロン人？」

部長「そうだ」

ポヨン「しかし体型などか全く…」

部長「戸籍上そうなつている

後もう一つニユースだ」

ポヨン「はい？」

部長「彼女が釈放される事になった」

ポヨン「釈放ですか？」

部長「そうだ 明日になる」

ポヨン「わかりました」

携帯を切る

ケロロ「誰からありますか？」

ポヨン「刑事部長から例のペポコーン人

明日 釈放だポヨ」

冬樹「良かつたね軍曹！」

ケロロ「ポヨン殿お願いがあるあります」

ポヨン「どういう？」

ケロロ「そのペポコーン人と面会させて
ほしいであります」

リルル「私ものぞむわ」

ポヨン「部長に頼んで見るポヨ」

こうして無事に釈放される事になった

麗華だかこれが悪夢の始まりだとは
麗華は予想もしていなかった

夏美「そう言えばここに何しに

来たんだっけ？」

ケロロ「すっかり忘れてだでありますーー

どうしよう」

翔子「明日探しに行けばいいよ」

ケロロ「そうでありますな」

ケロロ達が時間を無駄に浪費している

ころクルルは何かを発見したのだが

これはまだ別の話 :

つづく

第五話

その日の夜日向家で

秋「ただいま～」

夏美「お帰りママ」

この人は日向秋 漫画編集者である
そのあとに春が帰つて來た

春「ただいま」

ケロロ「お帰りなさいであります春殿」

日向春 冬樹と夏美の父親で職場は西澤財閥

翔子「今ご飯出来たわよ」

夏美「今日はなんだろ」

翔子「石焼きビビンバよ」

春「おビビンバか」

リビングに行き食べる準備をするみんな

ケロロ「今日は我が輩が…」

夏美「なにをやるのよ」

ケロロ「号令でありますよ」

冬樹「食べよ」

ケロロ「いただきますであります」

はなふあ「いただきます」

日向家の平和な1日はこれで終わつた

一方太陽系外のある惑星では

? ? ? A「ガーラガラガラ」

? ? ? B「何のごようでありますガラ」

? ? ? A「お前にはペポコンにいつて

もうううガラ」

？？？B「ペポコン ガラ？」

？？？A「そうだガラ」

？？？B「了解ガラ！」

謎の宇宙人は地球へ向けて出発した
そのあと彼の上司と思われる人物が
ニヤリと笑つた
つづく

第六話

翌日再び宇宙人街
にある駐在所

ケロロ「感謝感激であります」

ポヨン「今回限りポヨー！」

そう今日は麗華との面会が許された
日だった 実はまだ麗華は釈放されて
いないため面会という形じゃないと
あえない

（面会室）

ある程度話た麗華とケロロとリルル

ケロロ「一緒に仲間を探してくれるのですか？」

麗華「当然よ 私もリルル小隊のメンバーなんだがら」

こうしてその1時間後

麗華は釈放され自由の身になった

一方冬樹達は：

秘密基地にいた

冬樹「クルルの方は何が見つけたの？」

クルル「いや」

ギロロ「何かを発見した時点でおかしいなことだ」

翔子「それどういうことよ」

ギロロ「リルル小隊のアンチバリアは
普通のと違つてステルス機能が装備
されてる だからケロン軍の科学でも
キヤツチは不能だ」

翔子「ふーん」

その後ケータイの着新音がなった

ギロロ「お前か？ペポコン人と接触できたか？」

ケロロ「出来たであります

あとねえそのペポコン人

秘密基地に連れて行くから】

ギロロ「バカ！ペポコン人に

機密をばらす気か！」

ケロロ「問題ない そのペポコン人

桃華殿と友人みたいだから】

桃華の姉という事実は伏せるケロロ

ギロロ「わかつた お前の好きにしろ】

ケロロ「了解であります】

その後電話を切つた

ギロロ「ケロロの奴一体何を考えているんだ】

ギロロは当然知らない麗華ケロン軍の一員だと言う事を…

つづく

第七話

11月27日 日向家 秘密基地の軍曹ルーム内
ケロロ「今日集まつてもらつたのは
他でもない」

いつもよりえらそつに言つケロロ
ドロロ一体何のようでござるか？」

ケロロ「みんなのおかげでリルル小隊の
メンバーが見つかつたのであります」

ギロロ「その事か？」

ケロロ「へ？」

ギロロ「確かに昨日ペポコン人を連れて
来るつてお前いってたよな？」

ギロロの近くにより耳元で話すケロロ
ケロロ「そのペポコン人がリルル小隊の
メンバーでありますよ」

ギロロ「うそつけ！ そんな冗談が
通じるとおもうか！」

クルル「嘘じやないぜ」

ギロロ「なに？」

ドロロ「どういう意味でござるか？」

クルルがパソコンをみんなの所へ
持つて来た

クルル「西澤麗華 階級は曹長 リルル小隊
のオペレーターとしてつとめてる
5年前にペポコン視察にいった
ケロン軍人によって拉致 それ
以外の情報は不明だぜ！」

麗華の過去は謎のままである

だが麗華の過去が明らかになるのは

後だかそれはまだ別の話し

ギロロ「そのペポコン人今日来てるのか？」

ケロロ「だから小隊を呼んだんあります

麗華殿 入つて来てちょ！」

つづく

第七話（後書き）

ケロロ小隊の出番があくくなひゅいました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9087y/>

超小説版ケロロ軍曹 新

2011年12月1日16時58分発行